

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600037
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム曾於
所在地	鹿児島県曾於市財部町南股99番地1 (電話) 0986-72-3034
自己評価作成日	令和5年2月14日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム曾於は、自立・快適・安心とモットーとして、財部町の自然豊かな環境の中で、「自分らしく」「自分のペース」「快適に」「安心して」生活して頂けるように、今までの馴染みの家具や使い慣れた道具を使用して頂きながら、職員や他利用者様と少人数でゆったりとした家庭的な雰囲気の中で共同生活を送って頂いております。

・財部町市街地に位置し、幹線道路に近いため利便性がよく、天気の良い日には、ドライブに出掛けたり、苑外(川沿いの遊歩道)へ散歩などを行い、地域の中で生活している実感が持てるように支援しています。

・看護職員を多く配置しており、経管栄養やカテーテル管理など医療依存度が高い方や、行動・心理症状が強く出現している方も受け入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは曾於市財部町の市街地にあり、病院や買い物等の生活圏を隣接の都城市としている住民も多い。幹線道路から近く、小学校・市役所支所・道の駅・郵便局・商店等があり、利便性も良くかつ静かで自然豊かな環境となっている。園庭に植えられたモミジと桜からユニット名がつけられ、利用者の約4割は男性であり、職員は利用者が生きがいや楽しみを感じて暮らせるように、日々のケアに臨んでいる。

利用者が本人らしく笑顔を絶やさずに、家族や地域と触れ合いながら過ごし、職員は丸となって「利用者が幸せを感じながら過ごせるように」という理念を掲げて支援に取り組んでいる。毎年ホームの年間目標を四字熟語で表記し、ケアの振り返りや意見交換等で意識付けを図っている。地域の中では町内会長や民生委員との交流があり、管理者は消防団員やPTA活動等を通して、地域の一員としての触れ合いや交流に努め、その職務を果たしている。認知症ホームの会は、市や地域包括支援センターの職員が中心になり、市内のグループホーム職員が集まって毎月開催されており、情報交換や勉強会が行われている。一般住民やグループホームの利用者など約20人が参加し、認知症についての知識を深めたり情報共有の場となっており、地域の中でのサポーターとしての役割を担っている。

当ホームには複数名の看護師が勤務しており、医療ニーズの高い利用者には専門的な知識を活かして支援し、利用者や家族が不安にならないよう配慮して、可能な限りホームで生活できるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人共通の理念や訓示、毎年のスローガンを玄関・ホールに掲示している。また事業所の年間目標も毎年作成して、業務の中で提供しているケアが理念に沿っているか判断材料の1つとして活用している。	理念は各ユニットの玄関やホールに掲示し、年度初めに唱和している。ホームの年間目標を「勇往邁進」とし、目標に向かって進めるような支援に努めている。管理者は年2回職員の個人面談を実施し、理念を共有して日々のケアに生かされているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の運動会へ参加やボランティアの受け入れを行っていたが、コロナ禍で地域行事の開催がなくなり、交流が少なくなっている。地域の消防団に所属し、要請時は火災現場へ出動している。	コロナ禍のため、ボランティアの受け入れや子供達との交流は自粛しているが、近隣の散歩時に住民と挨拶を交わしたり、野菜等の差し入れを頂くこともあり、地域主催の鯉の放流を見物に行くなど、可能な範囲で地域との交流の場を持てるように図っている。管理者は消防団員としての活動やPTA活動等を通して、地域の一員としての触れ合いや交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症カフェ参加時に、住民の認知症や施設に対する疑問や質問を、認知症への理解を深めてもらえるよう受け答えした。入所希望者だけでなく、地域の方々の認知症症状の相談や制度・施設の説明に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で集合式での開催は出来ないが、ご家族様には、月一回の手紙や必要時に電話連絡で、意見や要望を伺い、サービス向上に努めている。	会議は現在、2か月毎に利用者の状態・行事や活動報告・ヒヤリハット等を記載した文書を市役所支所職員・民生委員に郵送し、家族からの意見等は面会や電話等で聴取している。家族の出席が難しい現状ではあるが、出された意見等は職員間で話し合い、サービスの向上に繋げていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールでのやり取りを行い、市役所の担当者から指導や助言をもらうなどの協力関係を築けるように努めている。必要時は随時窓口での相談を行っている。	市役所本所との連携は支所が窓口となり、運営推進会議・補助金申請・介護保険関係の諸手続き等、電話やメールで指導・助言をいただいている。生活保護受給者・成年後見人制度利用者もいるため、電話・弁護士や行政書士の来訪・社協との連携等、日頃から情報交換に努めている。市・地域包括支援センター主催のケアマネ会の勉強会にはリモートで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、身体拘束しないで対応できる代替案を職員間で検討して取り組み、隔月で身体拘束についてのアンケートを行い、日々のケアを見直す機会を設けている。	「身体的拘束等の適正化のための指針」に基づき、身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、研修動画による勉強会やリモートでの外部研修の報告など、年間計画で研修を実施している。身体拘束の事例がある場合には、身体拘束ゼロ対策運営委員会で話し合い、全職員が虐待を含めた自己点検シートを記入して意識付けを図り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会を行い、職員がお互いに注意し合える環境作りや虐待防止に務めている。また、隔月で虐待についてのアンケートを行い、日々のケアを見直す機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については職員全員が閲覧できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、入所時にご利用者様・ご家族様が納得されるまで重要事項等の書類を含めた不足のない説明や不安や疑問の解消に努め、理解を得られるように心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人様との会話や、ご家族様とは毎月のお手紙で状況報告を行い、電話連絡や来苑時に、ケアの方向性や相談・情報交換をしている。	利用者の意見等は日頃の会話・表情等から、家族の意見等は電話・メール・利用料金の持参時等に把握に努めている。家族から病状変化に対する不安の声が聞かれた場合には、毎月の状況報告・写真・担当職員からの手紙等により理解を深めてもらい、信頼関係が築けるように努めている。耳が不自由な利用者では、手話通訳交換手を交えて情報共有できるように工夫して支援している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し、日々の申し送りで言えない意見や考えを聞く機会を設け、玄関には職員用の意見箱を設置している。 必要時は個別に管理者やケアマネへ報告・相談して、意見交換をしている。	職員のための意見箱を設置しているが、仕事や体調面の相談など直接会話することが多い。利用者に対するケアについて申し送りやミーティング等で意見交換し、日頃のケアで感じていることや実践できていること等について、管理者は職員からの意見等に傾聴するように努めている。資格取得や研修の受講料助成、資格手当の支給等にも積極的に取り組み、就労意欲に繋がるように支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の自己研鑽や勤務状況を把握して、勤務希望や有給取得は可能な限り調整し、各個人のモチベーションが維持できるように努めている。また個人状況や有資格を考慮した雇用形態のとれるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各個人の技量を把握し、研修案内の紹介を行い、必要な研修の機会の確保や、本人が希望する研修に参加できるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修案内等は回覧し情報提供して、職員の経験や知識に応じて研修参加の機会を提供している。 市主催の同業者対象の研修会への参加もして、情報交換やネットワーク作りされ、必要な情報は申し送り等で、共有できている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学希望や入所申し込み時に意向や要望を聴取・推察した内容と不安や疑問に思われるようなことを触れ、本人から話し易い雰囲気づくりやご家族様からの情報提供を基に安心して頂ける関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりご利用者様の状態や困りごとの確認を行い、施設入所への不安や入所後の要望について伺い、入所後は面会時や電話連絡時、毎月の手紙で状況報告や説明を行い、ご利用者様を安心して預けて頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や入所申し込み時に、ご利用者様の状態や困りごとの確認を行い、在宅での支援方法や入所の必要性について話し合いを行っている。また、必要に応じて他サービス・他事業所の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の残存機能や生活歴を把握して、無理のない範囲で軽作業への参加や本人様の話を伺い、職員もご利用者様から学ぶ姿勢を持ち、ご利用者様が介護されるだけの立場にならない関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前より事業所運営に対して、ご協力をお願いをしており、コロナ禍にて面会制限を行っているが、窓越しや遠眼で面会、必要時の受診や入院の付き添いをして頂く等、関係が維持できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、本人様希望時には電話をして頂いたり、周辺地域へのドライブや事業所近隣の散歩などを行っている。また、本人様の写真を毎月のお手紙に同封するなど本人様の状態や状況が分かり、関係が希薄にならないよう努めている。	コロナウイルス感染予防のために、現在面会は行われていないが、令和5年4月からはアクリル板を使用して予約制で実施する予定であり、家族へも周知されている。職員は利用者の馴染みに関する情報を共有し、電話の取り次ぎ・手紙やはがきの代読等の支援を行っている。訪問美容は中断しており、職員がヘアカットしたり家族が行きつけの美容院に連れて行くなど、これまでの関係が途切れないような支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様の性格や関係性も考慮した上でソーシャルディスタンスを保ちながらも関わり合えるような座席配置や役割等を考慮している。また、変化する利用者様の関係性を、申し送り等で情報共有し、その都度トラブルにならないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて契約終了後も転院や他施設入所時にはご家族様に確認後、必要な情報提供を行っている。また、亡くなられた場合もご家族様と連絡を取り合い、必要な支援や相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行や重度化により意思表示が困難なご利用者様もおられるが、行動や反応・表情から思いを汲み取る努力をして、本人様の思いや意向に寄り添ったケアや支援を検討している。	利用者の思いは日頃のケアを通して把握に努めているが、意思表示できない場合でも仕草や反応に配慮しながら声かけして本人の思いを汲み取り、支援に繋げている。レクリエーションで昔の話や歌を歌ったり、新聞・読書など本人の意向に沿って支援し、利用者同士が楽しくホールで過ごしている様子を見守りながら日々の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様との会話や情報収集、入所前に利用していたサービス事業所からの情報提供等から、これまでの本人様の暮らしを把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の心身の状態確認を行い、以前の生活習慣や残存機能を活かして本人様のペースで過ごせるように努めている。また、職員間で情報共有して本人様の生活リズムで過ごせるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にモニタリングを行い、通常は半年毎に本人様・ご家族様・職員・主治医それぞれの意見を個別に聴取し、その際に評価・検討も行った上で、本人様の意向に沿った介護計画を作成するように努めている。状態変化時は、随時計画を変更するように努めている。	利用者の思いや意向を大切にして、本人の状態に合わせた介護計画を作成している。本人・家族・主治医・職員等からの情報や意見を基に3か月毎にモニタリングを行い、ミーティング等で話し合っ、年1回は計画を見直し再作成している。利用者の状態が変化したり入退院・入居後間もない時期等には、随時計画を修正して現状に即した計画となるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別のケア記録に記入し、申し送りやミーティング内で職員間の情報共有をしている。その内容を支援経過に残し、介護計画の見直しの際に評価・活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況や状態に応じて、柔軟に必要な支援を対応することで既存のサービスに捉われないサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源と協働することが難しく、豊かな暮らしを楽しむ支援は行えていないが、地域資源の把握は常に行い、必要や状況に応じて協働できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人様及びご家族様の希望を尊重しており、協力医療機関以外をかかりつけ医としている方もいる。受診支援時等の際にかかりつけ医と事業所の信頼関係構築に努め、必要時に適切な医療を受け入れられるように支援している。	利用者及び家族が希望する入居前からのかかりつけ医を受診しているのは6分の1で、協力医療機関を受診する場合も含めて、全てに受診支援を行っており、必要時には協力歯科医院の受診も支援している。眼科や精神科等の専門診療科の受診には職員が同行し、受診結果は記録して家族にも伝えている。夜間は24時まで協力医療機関が対応し、24時以降は対応可能な病院との連携体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は関わりの中での情報や気付き・異変を看護師に報告・相談して、ご利用様が適切な看護・処置・医療機関の受診を受けられるよう支援している。また、介護に必要な情報は申し送り等で情報共有している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時はケアマネが入院先の看護師やソーシャルワーカーと連携して、安心して治療が受けられ、治療終了後は早期に退院できるように努めている。</p> <p>コロナ禍にて医療機関側より面会を制限されている為、定期的に電話連絡を行い情報交換や相談を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に事業所で出来る範囲の支援を本人様やご家族様へ説明し、終末期の意向確認を行っている。状態変化時は、その都度意向の再確認、医療機関へ相談することで、方向性や支援方法の情報共有が行えるように取り組んでいる。</p>	<p>現在看取りの事例はないが、「看取りに関する指針」を作成して、家族の気持ちの変化に合わせて意志を確認している。ホームには看護師が複数名勤務しており、医療ニーズの高い利用者もあり、専門的な知識を活かして関係者間で話し合いを重ねている。最期は医療機関へ移行していく利用者も多いが、可能な限り納得できる終末期のケアとなるように取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者様の急変や事故発生時に備えて、勉強会や資料の配布、定期的な訓練の開催を行い、知識・技術の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練及び夜間を想定した訓練を実際に通報から避難終了まで一連の流れを行い、消防署へ報告し、指導や助言を頂いている。管理者が地域の消防団に所属し、避難時の協力体制を構築している。食糧や飲料水、介護用品は3日分程度を備蓄している。</p>	<p>「地震・火災・風水害対応マニュアル」を整備し、年2回火災を中心とした避難訓練を消防署の協力の下に実施し、自主訓練も2回実施している。コロナ禍のため地域住民への声かけや参加は得られないが、ホームの近くに住んでいる職員がすぐかけつけられる体制が整備されている。備蓄は各ユニット毎に食品等を3日以上、カセットコンロ等の災害用品も準備して、防災対策に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症や権利擁護の勉強会を開催し、本人様の生活歴や習慣、誇りや自尊心、羞恥心を傷つけない関わりを心掛けている。また、知り得た情報を職員間の共有に留め、個人のプライバシー侵害にならないように努めている。	「権利擁護・虐待防止対応規程」に基づいて勉強会や研修を行い、利用者の尊厳やプライドを大切にされた支援に努めている。入浴・排泄の支援の際にはプライバシー確保に配慮した声かけや対応に心がけ、言葉遣いは「さん付け」で丁寧な言葉で話すなど、適切な支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声掛けや反応、本人様の行動から確認・推察して本人様の思いや意向を表出し決定出来るように促している。食事や水分等、本人様の嗜好で選択できる場を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に、入浴や食事、臥床等の時間は本人様の希望にできる限り沿った支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	職員のボランティアにて散髪しているが、ご利用者様は納得され喜ばれている。また、個人で化粧水やローション等を持参され、使用されている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑庭で採れた野菜や購入した野菜と一緒に下拵えしたり、本人様の嗜好や咀嚼・嚥下状態に合わせた形態で提供し、職員も一緒に食べるなど孤立感なく、楽しい雰囲気の中で食事できるように努めている。また、無理のない範囲で下拵えやテーブル拭きなどの片付けを職員と一緒にやっている。	調理専任職員を中心に各ユニットで利用者の心身の状況に合わせた形態で調理して提供している。食事介助が必要な利用者が約4割であるが、利用者は食材の下ごしらえ・コップの片付け・テーブル拭き等を手伝っている。畑で収穫した野菜・果物・差し入れも活用し、行事食や手作りおやつ、干し柿・梅干し作りなど食事が楽しみとなるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の身体状況・習慣や嗜好に合わせて食事内容・食事形態、提供量を調整しており、1日を通して必要量を摂取してもらえるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個人の状態に合わせた道具を使用して、声掛けや介助にて行っている。毎晩義歯洗浄剤を使用して洗浄して口臭予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は排泄チェック表を活用し、定期的に声掛けや介助を行い、トイレでの排泄を促し、パッド使用の軽減に努めている。また、適切なパッドが選定できているか朝礼やミーティング時に評価・検討している。	全居室に手すり付きトイレが備えられており、誘導の際には工夫して声かけし、日中はできるだけトイレで排泄できるように支援している。布下着・リハビリパンツ・オムツ等、利用者の状態に合わせて介護用品等を使い分けている。便秘の予防には繊維の多い食品・毎朝の牛乳・ヨーグルト等の摂取や運動を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、申し送り時に職員間で情報共有して十分な水分摂取や繊維質の食事提供し、運動や腹部マッサージを行い、トイレでの自然排便を目指しているが、便秘時には医師の指示に従い、緩下剤の投薬を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的な予定は組んでいるが、個人の状態や希望、タイミングに合わせて入浴して頂いている。嫌がられる時は時間をずらしたり、職員を代えて声掛けするなど工夫して支援している。日により入浴剤の使用や、果実等を入れたお風呂も行っている。	入浴は週3回、午前中を基本としているが、利用者の希望や状況によりシャワー浴・足浴等の場合もあり、いつでも柔軟に対応できるように配慮している。入浴剤を使用し、シャンプー等は共用であるが好みの物を使用することもできる。入浴後はアルカリイオン水等の水分補給や保湿剤塗布を行い、入浴をためらう場合には無理強いせず利用者の気持ちを大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の状態や習慣に合わせて休んで頂いている。また、食後など状況に応じて体位の調整を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状を各個人のファイルに保管して、職員が必要時にいつでも閲覧できるようにしている。また、処方内容に変更や追加・中止があった場合は申し送りやノートを活用し情報共有をして異常や変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態や習慣、残存機能に応じて、苑庭の草刈りや園芸、調理の下拵えなど各個人の経験や知識を活かして、気分転換や楽しみ、獲得役割が得られるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて地域行事の中止や縮小で従来のように外出は行えていないが、利用者様の希望にて周辺地域へのドライブや花見などの外出を支援しており、気分転換やストレス発散になるよう努めている。	家族と出かけたり地域との交流は難しくなっているが、近隣の散歩や公園での花見・自宅へのドライブ・行きつけの美容室・家族との病院受診など、できるだけ外出できるように支援している。ホーム周辺での外気浴や日光浴を行ったり、裏庭の金柑をちぎって食べたり、自然の中で季節を感じながら過ごせるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様の数名は少額の現金を所持して、安心感や満足感を得られている。職員は本人様の希望時に使用できるように支援しているが、支払いをする機会は確保できていない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望時や不安時に、ご家族様や知人・友人へ電話連絡を行っている。FAXで連絡するご家族様がいる為、必要に応じてFAXを活用、しやり取りを支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下には行事の写真やレクの作品を掲示して季節感を感じてもらえるようにしている。また、天気や日没などに合わせて照明を調整し、コロナ禍にて適宜換気を行う為、室温・湿度の調整に配慮している。車いすの方が多く、天気の良い日は窓際で日光浴など行っている。</p>	<p>ホールは明るく、廊下には天窓が設置されている。窓からは外の景色がよく見え、利用者は四季を感じながらゆったりと過ごしている。壁や廊下には写真・利用者の作品・絵や生花等が飾られ、鉢植えの植物が玄関と和室に置かれて、和やかな雰囲気が感じられる。空気清浄機・加湿器・換気扇等を設置して空調管理に配慮し、居心地よく過ごせるように支援している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソーシャルディスタンスを保ちながらも、他者との関わりが維持できるように座席の配置を考慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人様・ご家族様に馴染みのある物や好みの物を施設内に持ち込み使用することは本人様が安心を得られ落ち着きへと繋がることを説明して、可能な限り本人様が自由に動けて居心地の良い環境作りに努めている。</p>	<p>居室にはエアコン・ベッド・トイレ・洗面台・クローゼットが備えられ、入口には写真と名前が貼ってある居室もある。利用者はテレビ・写真・衣装ケース・座椅子・茶碗類・寝具類等を持ち込み、身体状況や好みに応じて配置を工夫し、落ち着いて憩える暮らしとなるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人様の残存機能や状態を把握して、出来ることが継続して行えるように、分かることを伝えられるように工夫して自身のペースで過ごせるように支援している。対面キッチンで調理にも参加しやすく、廊下や居室トイレはバリアフリーで手すりが設置され、出来る限り自由に動きやすい環境を整えている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない